栄花物語

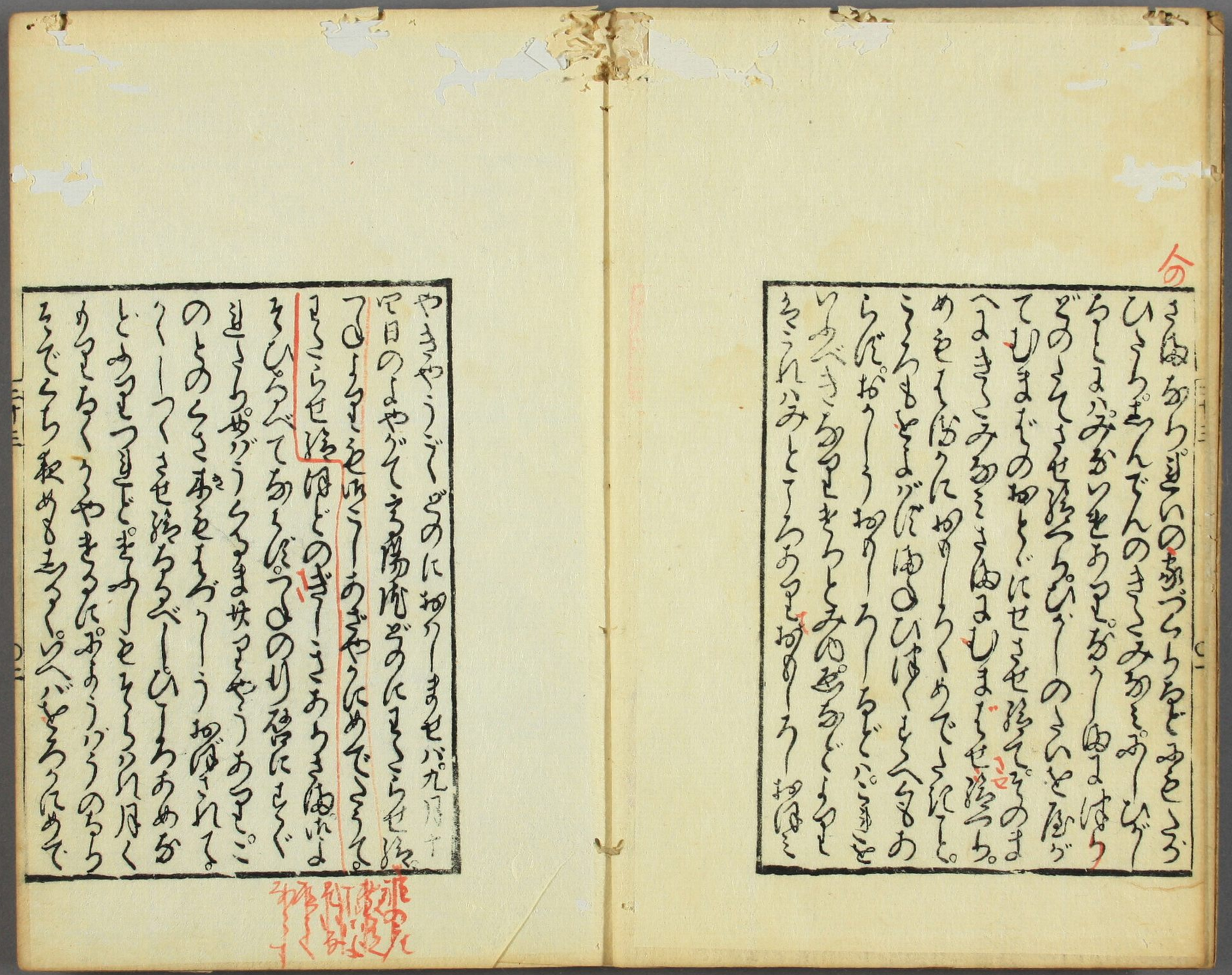
こ西くぐ
ひろ校　十二

内閣文庫

内閣文庫

此

こゝらくべ
もろ〳〵九月みもろもあぬらんゞくどのゝ
陽成どのゝあそこゝぬらくべせさせ給て切幸
の御書あるべきにつゝざあるとゆわゝきさ
せ給ほどゆへバそろゝにくめてこゝこの世
よハ月いぜんのゆんぎやうぐどのゝるぜとぞ
人ゝのゝあるとゝわかひゝろにそ陽成
どのゝあるとゝぬどこの世のゝゝみゝぶゆ
いるとゝうゝるゝのゝあるとゝてゝどゝさハ
方にみゆゝるこのゝのハそゝるにとゝろぬ



さんぬかりつぼいのあづくりをとみをこう
ひさうぢぼんでんのきくみかくみ〻ひげ
らしよはみかいをあつとぶうはぬよはう
ぞのそてさせたつぷひぐーのこいをぬげ
てむまむのねとぐにせさせたてそのま
へよきくみかくみぬまむまじませたつち。
めをそぬうにねりくくめでこにて。
こんもとそよびにはひはくもへ多あ
らびぶおうしうねりうりうるどはぐまを
りあべきあるときりとみのぶあるぐうりと
きこれはみとりとあるとねりうねはき

やきやうづぐどのにねりーませはぶ九月十
四日のよやぐて主陽院どのにまこらせたる。
つよりまきをぬくうーあぐやうにめでこうて。
まこらせたるほどのぎーきあうきぬれよ
そひぐうべてあうにべつるのり殆にもぐ
まこうぷぐうくるまぬ世つまやうあつまご
のとのくきあをもぐうーうねぶされて。
くーしてきせたうべーひーうああか
どあつまつまどぎあつをそうれ月く
ねつまうくうやきうにぷあうぐうのうう
こでうちあめるまくぷへはまうにめで

ちうおりまゐぬ。ぢんでんのみなみのし
しのはまにれこうせくおるまくる路法
ぬぽりのうんちへでんぢやうんみなみの
ちどまいりて孫ちども法てぬうし法ぬ
ひてちおりまゐぬ。おなじ十九日
うぬちうべせる法ぴてわるにあるとつる人
きよいはちうつさめでこうぽみどのおりう
まゐべきちゐぢんでんのみるこおりて
にこそ。ぽ舟をよそひこちゐみのくさぐつと
あそ切幸あぬれこうーのせておりるとさ船
法ておりまゐしてぬこせ法てぐちう

東宮

おりまゐ陣のとみくこしのようちう
してぽちうまゐ陣みくうさおりろうて延
ちぬつうておりうこせ法ぽーのらうのなう
のはまどまちうつこせ法てぽーのこのもく
のこまちうとをこをてぽぐどのーすれこをと
ちうせ法てぽんでんよみなみおりてちう
つうせ法てぽ屋につうせ法ぬ。ちうのぽ舟
をひうぐなるとみをのうちのあるとさ海
ぬひ船ちうまてあまーみやのおまへのま
ちみそぬつうせ法ぬんぽりひやわきこえ
こもぬ人なしおうぐさうどのハひぐれこい

のきさのくるにようて、父母あるそこにおも
をかけらるとぞうべきそうよもおぼくぐ
しておりまして、やのあるうばうれあり
さぬぞんでんのみーみるまゝおりてもわに
のまるどのもてもべていとおとろくし
うめみぢげさるいろをはくーるわぞる
のーとぐるもちれがらひはくるびみーのるい
よハうんるちめつさぬざるべくみかりの
あおるきうーぬつめてやうくみれば
くぐるこざるでるとぞもしうぬのるか
どさぬくまひいでぞまハひげーのるいる。

まるるせぬまるるそこひくちあるにおも
しまんずるうまるてもるおりまして
ひるざるちぞあるるのゆるどもるめるそ
ぬるちぞうんるうちめてんどやうんみかひるろ
まるくひげーのるにまいるぬぞうまのるの
どらをみかれのゆれ家ものめでるれなるにぞうん
どくぐるのれれまるげるのるくのひへき
かやるあるるぬるるるるるんひま十八
どんちるぬるーるるものるんぞのあ
人もひまるぬるるうるとみくるるるやいの
ぬぞまれるるちもるるるうるう世にめでたし。

とゆひてともす豆ばんでくハひさいま
ひきられすぶりどもとゆきぐうこうわと
ちくみそこうぎんてのくあるぶどもひさ
きを豆ばんくるびくくはせらる豆ばんでそ
めてくるびくくにちうてぶ石くくこんくち
まけをんぶりどの九条のとともちく
ぬちげちぶまでおりぐちまけれの
豆人のくりぶりどちぜかさまさ
ゆとみくちぶまくやぐてこのかうれとねち
ともちくこんしてあ家のくそまれどもせあ
ひまぐまてぶ殘衣ねさせぶぐちまけのま

ひちどもおうくうてもてあ豆ばんぐくそのの
めのねどもちくうちちぶちぶくにぶいくぐうお
りちくぶかうくぶあてを豆ハせさせぶ
きぶかんくちめてんどちうんちどもぶにん
へかうぐちちぶどのくとねえんぶハまくあ
ちまてをうぶたとハみぐるんちどぶにじ
うめできくしきうえんぶぶくをもてく
まにいてくへらせぶぶとちうのどもれ
ちちのとよハせぶうぐちせさ給ぶへま。
んくちめれ殘石上人のくりぎりのちぜ。
ちにくぐひちぶまでせさせぶくちぶ

うたどもをぬくにしたがひてうつしとる
うの日ハきのふのことをこひしがりて
ぬるよりあけぬるまでこゝろもとをきうえ
よりくんしらめぬいろ〳〵ばかりのこの
いとゞうのてもやしきうえさせたてゝ
きるをときうめてやどりやのれうと
にまいらせたつる。秋よりあきまに月ゆり
ろくくりまちくてうつくしうあにぎ
のふのしたくさにのこゝろのひてぐれと
どあれはいらちあるべしやあまきむろ
まとでつるぬつるんとどのあはせたひてぬま

へるめりそくくもたゝへばうさこそまつ道
まとゝ詠まるゝお補文事ハ情士四義指頭う
まびのこゝあまさうこまるしそまつる
ぬるきはきさのこゝやあめれまるにみるさ山
といてこびめまたはひ日のりしにかもてきで
とはるへおりまてゆくもあ
のりしきしとおはもらのちとをの
まりのうせにあさはうへおさゆよよ
ろこびきこしとあるとをうハひとあび
もあはこれのうろのとけさよにおは
くのぬつりしとをとをくべところりたはれ

のあはいまうちさきもぷのせのやまれく
りくぶてらぬれかくしひるどく
よりもさのひんぐくぐせさら
ぐらはどにぷにくへるとらぐまくあは
とーろにおさらくされのいろうどつ
くうづきぷくあのうてかとみさかー
ておやもさくうさもとりまとうへぐどある
いくはつくとくてらくべてやまどあみ
いけとくへもあはるとれらんぜさちん
とくぷかぐづさのとうやうくにあくら
まあよくらせはるるぷ故にくうにつう

きまぷさのみみゆくさせはてひくのに
みれあくそびあくそおくはきあはくろのどう
にあくさのくらもりるとらくよれ月げ
もくあちくてくらせるぷあまくのくた
ちめくんじやうんまりうはどひぷきーのきく
ひくくくにりみとくとくぶいくてぷう
とくそあつらせはぷこのくとくとのれまるさん
くとはくあまくさちうくとあはせはくもはる
くとむのくやくーをあいれにちうてぷも
かのありひもまれにきいくぷくとだのい
つくあくくちうくきまればくるくあうぬくう

ぐさとおぼしめしてあらぬ
のうらうらるもなのあるめしく
ぬすへ　まくぬめす
緑なる松はひをあらそふ汀にの波よ白きぎくの巻
秋家の巻に
中ぐうちよ　計信
ぬつりう潮ぬ　俊昭
巻の面に波おりかけ茅の巻と白くかるべき
ぐうぶう

とちうのさいにいれぬ茅巻
茅巻の池の白波たちかけてよにかられて白へきれ
中ぐうぐんぐうぶ　紀信
いとしくらと限てもむ水に全く白よ白茅のうれ
うんのんう茅のんのうう
白ちう白とちとあるそこすそそ白茅巻
白波の巻に
ぐん中ぐんぐん　長泉
茅巻白ちよ
れ茅巻巻巻巻巻巻巻
白ちよ　迎方
白ちよ
実成
元信

[illegible]

つゆ

つゆもせぬ匂ひ[illegible]の[illegible]

つゆもせぬ匂ひ[illegible]の[illegible]

[illegible]

宿

[illegible]

資平

[illegible]

[illegible]

[illegible]

むしのねいらせたるとちんおぼしめしよ
のごとくにおぼしめしてこれにおぼしきこえさ
まふかくおぼしめしやいきふあれうらにいらせたべ
きとどのるとにとどめてそまうらせ
給つまびんもそうくもうびおぼしめしと
給らせたのこれあるときあるものらんど
もそくらせたべくはけちうちうにをあう
ぐうみをこのしとをしいきうおぼしめそ
きせたみどくらやはるのの門よあられろう
とはうきせたるうしこのしとくをにはにそ
へていくどうらんぞのはちうざぬるぞの

うちりでくれよつのてをこしくるくとん
おぶくたちのおりせぬしくとこそいおぼし
ゆんへうめまひめぶくをおかじとれおぼ
ひきうえんきせたへどいやりのくどそあ西
うちのこせきをたをしいをにるんぷ昏
まくるんつをくをこのしとをおぼしみく
ぬべしかのたはどれ中ぐうきとれおりまま
せばうちちくくいせたべきようれ
おうくくくしびくにるあまばーうち
多寛の西塔をにーー尺びうにつうあぐきた
てきをたてぬぐれらびみそおぼしと

きてゐる世間のうきをぬけでき法師ぬ
だ。このくやうせさせ給へんとてその所にて
きるわまるとぬぐうのるわらべも見えのこ
とぐもなるまとのくとぬぬ万寿元年九月
廿三日ものとりじめさせ給てお月職法師
法ものぬ僧ぬるやまのぶ法ぬさてハうもし十人を
かくしハそうぬうのうめくへさぐんそうるわぬ
日の法どいわしとれてさせ給てるぬうる
の法どいわしとめでうそうぬものわうぬく
見えのうぬりしきぬまれわらぬぬ法の数
米どもとぐでせさせ給てるぬうれるひすあや

のうちきいくにいひくへいよのれきあねと法さ
せ給てわぐくへのくあぬけさらもとるそうぬう
のぬぬれりのとせさせ給てわぬりんそうるハう
ぬうとせさせ給てうぬまでるぬびあわさまでもれ
うくろぬくへあまもつませ給てるぬるもこに
ハこぬぬしてもあるしとまれくあわ法く
ませ給てる所くみぬくそあのうぬりのくつ
はくどもちぬぬでくもとべて此こうる
ぬ見めでくそうせさせ給てうとみの法法れ
ちわうぬくハ見えのことるまぬのさびの
あるとさあとぬとぬひあ法さあにヤわりへ

まぶのうづくのちちぶ。ぬくにくくまつ
いろくくみかくれちゐ。きくちぶぞちわぶ。
くちぶのまくそ。ぶおきのあをとうさそ。
ぶ人のひりとせさせ。ぶうづちみどぐの
みてせさせ。ぶうへのぬくさのみのうむう。
ととくねさぬちぶぞおまさぬちくへを
みわぐくめでくぐうちぶさへくくして
させ。ぶるぬまはうくわくしとんきくうれ
ゆくしくうでくへまひとんにまくわちて
きくしとぶんもみどみゆぞのぬんちわて。
くくうぐまみてぬ。ぶのあるさぬをみまば。

それ見奇落ふれ涌出の條もものくしてハ
とめでくうのやきみえんくわぐくうさこ
そ空天王えまでいくねどのぐまみぐ
さぶくぶしとくちくやきるぬどそのとぶ
まあつるうちくちくそのくちぶちやうたか
うさとまりくぐもぶつるぬどくど。
ちくちのあくちのひくちぶおまへくわく
しめくて海つわぶきんがりんぐうの人ま
なてくうさまくまくて海つくまとみゆ。
きくのぬくさやくうぐふくうせぶくちぶやく
くのぶぶぶまやくうのくくちのくくぐへをみが。

かつををもちてわつぱちをもちてはいつてきさん
くのこころよいまでとはうてつるぬつら
むりどのこうてうあでこゝのつはまへを
とかくへまいまどもろてさをはつるわざと
とゞけへまてくめでそぬつらをはふぷのど
らもいこうくんーゃさをはふぷんたち
めてんどやうへのつるまるく海へわはへま。
こゞもこゞぬうてやまのぐ浜このれこ
とどいらこうめてはぷをめてこうたう
くて落のうちのこせこんのりこはと
しろのゆんさこうとんゆりひかさんはふーと

りこゞもおしーぷこうちにゆてゆくとぷへ
うにきうくしとはーあさるぷまうこ
れあそびあるべーぷこうるあうとゆ
めてぷくへまもれめーゆせらまこうま。
おとろくまうぷこうてあううまてあれて
うおりーうぷへるべきゆせでしくをはる
くをきうまてのまはのくはまへぷること
のきちんーゃねはゆひかーとて。
このさこへのこうこちんぷまこのれ丹ゆう
ぞくはりぷそまいこのゆやうのつやく
とゆさあとあるうるさんこあさをはる

てぶくとてやきあつくなる迄させはてゝみつはつけ。とゞけさうへのきぬ袴ちゞみなどをさせ。はつかぬぎあわせ法文をはたらかせんりうてぶくべき法文をはたらかせんりうてぶくべきはつかひよハむちくさんのいやとともうるものをとくとくさせはてゝやくてはげおりしまりてぶくせはとてぶくはんしとるさはるものゝ所しんぶくはらうそうのしとそへやかとハぶくくしとそこるうやうるまゝど。でこのはをきやうびぶそちえんのこうぶくしてるんぶこのきぬる

はべ病

さやまひの物のきれるきみのるくちあるあてくそづるとをるとくて由つるもあるもしのはつかるせてぶくはるるそうくちるとうくうあるくてかはくしてるはやをるくくのくくるべきはるまつるうまれはるこのひのはのせのやうはかでこれこといちんまくさみさまへきつくとくしるあ風病くとるるまやてぬるるぬへるるをやはぶぶなるくんもくこのあひくそくとぶきるのあくまぶべるあるるちぶぶくくひあるとてやはるはかくてそのはあそびつくぶ

ありしろくてそてめるまゝバ稀でもさいるも
て四ら目めれもらのゞらぬまへのすあれ
てあそだせ法あるつるぶんおゝかつとつ
ぬよまらくへ四よちてくちちとるる
うんうろてんいうぶうりりろさにこ
のそうくちハてゑうちあけりの痛ー
うまゝばてくらくのゞうろくちもくあを
ねのひやらまてめでくさとうぎろか
ーまろきさくくちんさるべきくんぐぬ
ちのうちろへ法をるーゑどりてぬーと
んくうとくめでくさその日あさざ姉

ざくてくぷうくくちんまのあつさぬのと
ぶるみくぬそあぬぷちちくちまぬハんいう
ぎもそてめんとてぷくくーくきらん
れみまぬいまどごのーんるまーるもへの
くくぐもまくせさゑ法ゞぶちつまバやー
くへーいそゞゑ法場ゆをぬどそうぬ陽光
どのちちつゑ法ーうバすくーくちのど
んんゞーーめてぷそくゑ法ふ十月十七
八日のゞどみでいくゑ法ぷ月ちてハまく
ゑせんのゞどのゞうのるるどもいそゞゑ
法ぷこの春ぶんらのくおまへかゞーんてくんよ

いつせ法てゞ日うりせ法ぐ[illegible]のうゑもろ
らハさゞと坊ゞしめてぎやうゝちろ
ばゞせさせ法。ゆゑゞうちにやゞてまんゞ
う忍せさせ法ゝゞべきまゝばゝあゞゝそうゑゝま
でりてのゞらせ法。ほとをの山妹ちにてまゝ
かゝをのゝゞゝをいゝでうゝゝとのへる
てゆいをゝ法。ぱ彌陀山修法ちゞをいゝで
うせさせ法ひゝくやまれそうゞせさせ法て
いでさせ法ゝてでゝの別尚雪ゞもに
ゝかゝくゝゝさゞひてゞつをゝの王治法ゝ法。
ゝうゞけをいそゞせ法ゝうひゝくゞその日よ

ゝそゝやゝく四ゝゝ[illegible]ゝゝゝゝの山法ゝ
ゝゝゝうにつゞさ山ゝあつゝゝゝゝゝ山ゝ
ゝへのゝゝくゞゝゝとゝゞ坊ゝゝ山ゝてゝそゞさせ法ぱゝゝ
とゝゞゞ。ゝゝゝゝてゝそゞさせ法ぱゝゝゝ乃
ゝゝひゝゝにゝゝとゝゝゝゝゝゝゝゝく
ゝゞゞゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝて
ゝゝの月九日ハゝゝゝのゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

あいとてこころのうちもぬさうつく
しうらうべきさうらうてせもとの法ゐと
法師ばかりのもちなごんどのもいうどうちう
せ法ゐとしてとうとちうや

まうえんざ

まうあつて万寿二年四月よりちうとぬ
そうのきうきさもあうさうかうちのどうるる
にびそとのにハぷしうちゑせさせ法ゐん
とそいそ多ゐ法ゐあうどうるにまざをせん
といひおもひまどこのたびのうえにハのめ
ぐるゆくぐさぬあうさうちうてあうで
ゐありうとこの法ゐうるるなのうち二日を
ひゝど寄とそのの日みうづうびを法
うてぷうくとうとうとぷれ法みおうちう
きうこのいうとうあうとめでうえれもこ

のうちにむかひ合ぎとりにたるやとみる。
もうかくつのくちもまもすぎぬまばらん
だくどのくちム饗ハ廿日ちんべしこのうやの
ハ廿三日しさぎめさせ給てぽ道もくをを
とらじまけどいそぎのくちとるめと。
らんぐどのぞくしこのことをあのりさ
せ給なぬちびきをぽ道どのうへまでよお
ゆりめしうんこうきづさやうこやのぽ
このうちりんのうばらんぐどのうへのれ
ゆちにてハ切りけどのさきんよお
むちーさきにぞ切ぬし給つし有ぬの

寄おのむきあのくちんぽまやうわむきせ
給つうしとぽくくもうを給もまばらくぎく
ハうーうちとくしあうさ給てそれも
うを給にしーうばのをんなぎーうちいま
ハむびよ切ぬよちうを給てぽわと切ぎ
みてあうとしときうを給てらんぐどのくう
へちうぬ人うとんぽむくさを給てどのれま
うちひれぐーぬいうちぎぽくさとうちぎ
らきうちを給給どあるきをハ殺仕の
たあどんのみさの則理をくさらひうちける
切どよぽとりのくをれちんもまばをうち

いにきうりのかゝ〳〵のさゝハまごとあるつけ
さを法師とでぬてぬてぬて

あさまでこさまで　はさまて　ぬきそろ
ちぶとはくりこれ　ぬどそめでさやはは
のとうまてこさこと　はしめてゞ日
ざにすざかばのうちにむくへさを張
てゞそこみくやーるひそまらせ張
ぶくはばーめきぬらあのりどのこと
ぬもはさらべきこにのくどもにはせられ
てみかそこまわしのくちらとざえ世
くぬさひそひんもあときちとのきる。
きにとみえんさりぺ道どのうとかくの張
はーこう

枝イ

うまくあくるれみどりぬ色きこ
むどはばつるれめのをれもくとの
ぞむくあときれとだいぶれくく抽すか
つとくいひしくのむきあぬとこうあう
みぬぶまばうむきあぬきいぶんーぬちの
つとばむきあぬぶんーぬちの
のおりまてれらんどをとばぬざちか
くはばさ色きちぬのうんはやくの月自
おさあみくもぬのみこをぶうくこうぬ。
しばあかはりにくくうんちぶこはばーの張

きまるまでいやがるものもあるまで。
くはしめたさはちがとうしてびて
そどのくさやにはぜ二日のよさもと廿三日の
あつさちがにぞさとのくはちむ。
廿二日にちんでんのひがーのさいちどのはれ裏
まがりんづくどのーち饗よりてとんちりくべ
きあいあくるよどぱひきでりのれそどりる。
又くんさらめれそでめはぱひがーのさいにはり
せはてのちくはまへのみあくはそのそのそ
らにしそのはおりにべまるびぱやうのしこ
そりるべきそのはにちりるまばはてろい

はしかくまちはひとりつるぱろにくく。
まさんのきあのいろにりひよやをとらんま
さんのりあいをみむよさりーのりべーつる
してきあくるくくはづがよりがり
まりびをあいそにさるにぱさとのくらりの人
人はりてぱびそんどこりあそでくれく
びやうぬきちやうづわとひさつがよてひ
まるくめちぱくことのくくいとは
そのつぎよくにひさつぐぬるとする。
つがるにはぱくりめのいさりぐておれいとし
やーことぶにそぱろりよちぐいる。

ありぬまさにうりてさいはらろめつをちぐを
こうろのどんにぐこのをさうをしみぐく
もあるとあつさちぐをも行せさうんを。
そさうにぞあるうんうちぐをりひてさ
ゆべき人くにいひつをぐをあしにくをな
どをさいんいそのこうろりしかうもて。
あいはりんのいうぐをいるまうぐりの
りんをりてさりぐいろゆるさをちぐを
をるんいをうりんをよりひてをしのをさ
いさぬちりをうぬうられををどうし
ぐにありひてうろのうぐをいをとうべき

しとうはうろさあとすをどもむりんあて
ちいはりさりんもちをりのをさやうんうん
ぬちをきををさるをおりあをいばをしろく
のみうしあげつまどをしあけまあ
けひうくさてやるいうをつくろひあをを
ばくさちぐをざいうざうをみをいばうぐて
うあをさちいはうくろつみるどりてさ
をくざをういをさぬあまさみをいばがも
ちううびつのをさにいをおうろくをうさ
ををいをてうちうねてをちをちるどう
きをりてうるもあうをんひうをしがりくつを

さんぱぐきにゝあらんとみるぷくゝあさゝ
ゝもぷやうゝく日さゝいどまばりぎとちゝじ
おゝきゝりまあてぷひりのじもさゝとちゝと
もてきてゝもあゝとそまにめをみやらじ。
あゝざをはらあゝさぷゝりのをさくもあ
まつぐゞの人くゝあれいゝぐきあけさせゝ
ぷこのはゝりのさハぐゝうあぼゝめ
てりのもきゝうゝめゝびぷきゝざんちゝを
ゝけゝくもゝでゝすゝゝきゝうゝめゝそ
こゝられゝそゝどもゝぷゝゝりゝけゝさせゝん
ぐぷぷゝらんせゝたゝまゝやあゝゝぷきのゝゝへの

はまへのゝゝとくゝさねてぷゝゝんよゝさせゝせ
ゝゝてゝらゝんぜゝてゝりぐゝにぷゝゝりんのゝゝそゝ
てゝゝゝくゝみゝくぷゝゝりゝてゝゝぐゝゝゝぷゝゝる。
きゝゝゝまゝぐゝゝゝゝぷゝゝゝゝ

まらわあんまるあはやけんやどて[illegible]
みいきそみちちゝひらどしてぬいるは
どきぬのさそそらどさせぬいるとみる
はあつぎもえさゝゝさびぎぬのごち
さくあつまを[illegible]ばをやれるきるかーう
らきぬはひがてきるまにわころびて
いそめを[illegible]ばをへるてこのむとちりを[illegible]ど。
ひちぐのいやをしてけるがくてまち
ちをあけまはかどんばまへのくさおしひや
ちを[illegible]おくゆしをちちざてぬいちあを
あを[illegible]ばまんでんのみをしのまんばれ[illegible]る

えゝくさをはてそのけのまゝち
ちどのゝちぶまさけのさんひゞーみるを
ありてまでぴとゆにみるとづわちんん
をのひゞーのくさちとひゞーさゆにれ
まてぴのんのちどのまでおちと。牧
をちちびをゝもあべしみをいもちち
ごのとしてあをちうぶちちどまのさ
ぬちちびぶちちんめとまとて塔さ
せはちぶやうにくちをわはんのあと
さぬぴをんくさあうおとちくしひで
のとをさちちぶんさちめぬちあはまち

文貞

うらぐーうるハげろくのみーきとまく
らさうしにつてぐらとさーらんやう
ろうとかさろうさるぼどーさくよげろみて
うまとおさまーうはとろくあうぐとぐく
ちハぬろーひでぐ洛ろぐ決とけのさやう
からんをもんくーらんとみえんうり。茶湯猿
うもーづーうとこらのんのうにみーらん
とーもーづーうておりてあくーぬべしね
れてーたてトにくごのくりんげーどのはハ
ーませハぐそーまとさにとーていやうるハ
ちうのどうにあゆくーてぐんでんあひーはる

てのみくーうちのばうぬてみかくこの陽
のひーげーはーをーのーざみくーうりんげーどのはて
ぐんぐーのーやの右のはくーつーさぬねーつざ
に中ーまちまちるどーくーつーきちーくーを也ぬ
ぬーみかはちーくーにるぬてーきーむーさにぬ
くを洛ーまハぬーまくーるのまりーどーくう
うらんにうりうーつーぬーを也ーてりのーの
ーまくーくねやあーざんーてーあいーをあーとう
おりるーをのげーりハうーぐいちーにくーを
きぬーてりーをくーにみくーやきーてりーつーり
くーるあーどーくーどーうおりーおりーまーぬく

このみとぎうゑられもはらんぐーらうえばこのあのうぐうのらりぐ。はやらゑさくらやまぐさかうぐひりえんぎのろいろをさうまりりーぷうーひろゑこいろはぐをゑさせ絵てるるゑまるぴうらハひとゐろをいつらこいろきこうるは十めぐーあゑハえぐーなぐ切ゑきゑハ十八ぬみくぐあらをゑ。このいろうくときりりーてるこぬるるかまとまをりぬあゑハをりりあやとこうるもあるあゑハをりりのぐりんうさりんかぐいろいろまうまぐひつぐぐきーあるぷりくさハいろ

へるゑゑまうくうるハやるなぐさかをのひとえへハみかうらうるもあるぬぴりくきあぐりのいろみかまうこのぬかーいろとをもくハりーつぐきあるとよハみかぬるうみらりゑくさんるやこうぐ。ぐうゑひりえんぎさくうるるやこのをそをみくぐみかゑくきゑるぬをとくてうやまるぐこのひとぬをゑ。ひをぐゑるあをくてうやまるぐこのひとへハみかあをとぐをりるまるぐのげうあくさまーうゑんをあやみてぐくゑゑにゆあとんくりーわくさんぬるぬるやぐうゑかごむうるのぬをぐ。ぬりるせぬりゑぬかえへの

ゆりうごくまづくさうちをまはるばうちのおもくハ
むりひまのうくぐるんハぱぱつうれくゆう
しそてぽるをーにくうちにまつうなる
ぱてぽげうのかうにまどらせぬひてきぬ
のうでぐらはうろくせぬぱうくうれうで
ちぐせさせぬぱをぽげうかうくいとびい
まうみまうあせあゆうぐとばうれをあや
いうんとうびまうはえてぱりてあう
むうちをまどるぽハひんうぱうぱう
たのあまさあハまんのれうんぐるとも
づーうにくくとぺのうちうるまひ

ようとうぐめきあのあうとさあにうひか
どどぽらんぐとびーくぺとのくはる
ひうぺこのるくめてくぱうんめぐるを
さハまこれよるまうまるそまうねばぱ
霊ぎのうはておとこのてのぐひーてぱ
ううーぎはううるかよこのうるれれ
とぐのうてあくぽぐまるをぱぐぺうで
うまびまるさーとうるとまるこのとのぐ
うのれうのあひまあくめぐくあれ
ひうくぺまうにハはうをとるもいはぐ
あまさいぐぱぎふの的度ハれ右ぎにも

ぬさうめぐくらんぺく　ぬりさんまぶ
へよぱひんぐ　しーのらうのまへのうたぺやーよ
しにいぐーぐ　ぐりーぐへどりーぐ　ぱぱまへのひうたぺ
やのりーこのぱ　もあれへまげさけうひのぐ
にらうたぺ　ぱらもあぐーさーぱ　ひのさ
ぐうのぐーへ　ぐへづいさてぱんざいら
くぱへいらう　いらくーるどくまへぱどいさーう
ありーるしぐ　ぐーのとやうぐもぱうう
ぱやもうぐ　ぱてぱてぐうきうえんさう。
ぐうへどもぱ　おまへのうこのみざりをうちま
ぐぐーあうる　うらもぱーくあとてぱのく

ぱいやをぱり　ーうしぱのーうやのあとぐーく
りんぐーくどの　ぐーさーうきうえんぱてぱ
りーうさこと　ぐもぱぐうこしーとのまも
ぐうへぱる　へぱをのげうみるのうもぱ
ざきへのぱう　ぱうのうもれやううるーとこ
うぐぱうぱ　ぱうぐぱーぱうぐぱーとぱうさ
まーうぐーう　ぐーうぐぱぐぱーとぱうぐ
ーぱ　ぱへぱうり　んぐーぐのうちはとぱまぱ
ぱうへりぐーと　ぱーとのうちにはうへぐーとぱう
ぱーくーとぱう　ぐーうぱりーうぱりーぱーぱのうん
ぐーくーどのーた　ぱ饗をぐぱーのーくぱーとぱうぱ

たづめえもいまだかうでうとおりひし
ぱう是ハ海之のよるわもりぱきのハあさ
らうちゆうぐうこにさしむひるうちち
してこしてハぱうちまづうまきまバぱやう
にこしてハおばえんまづまバ塚とこのあがうと
はみくつぱこうろあきしーのぱまづきふ
そうろびのこくのあまりもぱうつくろハ
ゆくゆくうとうびしやちどくの張もぱとさな
ぎ海おうーぱ海ーとやだんのめのおそのめい
こしてハぱまみやどそおとうにさを張へハどの
ぢうるどまうちあいまりと張あまバぱび

中ぐうのうまどのハぱんたんどこうのうさよ
アとりうを張てぱのこーのゆうを張まうぱう
えうらをどもうびくにうりとてぱのバう
のぶりのうぐうもすうものびうるうちぱ
日のうろーはどぱうこうくのえーうちま
つぐうりにまうそでうとりーうひうどぱ
もうどのひうとみるゆうよぱまさ安ども
のまうちうはさあやーのうちとうもえハ
めうそくぱりのはくまりぢもおりひやうぬ
ぢりきみくぱとううてでうにまいう
まうたうどうどうどをうるのうにおりーう

ゆとりとしろものにぞくしたりのいぞきたん
やとしうゆるにぞ。ゑどーのちにそやどうりざ
ねのまよにりてきそなてうこしくうぞ所
ゆるとおりひうるうすーさーてぷうわそこ
しうのうこにおるねどぷうーどうけうう
うめとゆうてれらんどぷのびうゆまハれ
あそびはるゆるとてゆうどうゆーきたんば
よいうこるまりのくゑがもこうんしくるゆ。
れうりうまたくなうゆさうれうまいうこる
よ。中文うゑうこうう通し法ぼふ弟吉兆
翠上御文和燈入酒中ゑこれそのれーゑ

酌

みてれうりうまものちげくまだ一ゑ言ゑうれ文
外教教ゑ酒酎ゑ中ゑるぞれてゑぞ
もおりーうそのれるよおひようきふハだん
ぜひぜんもうをぞうびきうぞのれふも
あうまぷさゆくおうーくみうまれやくゆえ
ぐうきぞれれゑーうーさどもみゆるもおうれ
べきうまハぷうこうぞれーしそれうくどもそう
てどうまれうぷーうまゆびねどぷうど
うせうまれうとくびきくーどうしどのど
うりどのくもうまれうりんびくどの
うりにうまれうまれまへよりうまれふ

のこしをへてらかに
ぜさせ給てこのこーしの世の中ふを
くうりょうどうくるこづるまさ一ぜ
のぶぐそう恋のぶくくのぶのうづうのか
ぎどもるどで世にめづらる為こぐも
にをづらしうどもをいハるつかはバしく
ぎらもあくてすじかからきをとかでうん
のさうぬうせきくぶやうさつ絵ざくよ
さくくにふくをーくくびかりまにぶ電
文のかとぐぶ中文らまちぐふをこづー
きうんくちあるかぶをんてりぶかとかと

ひぐきくみぐうつるとぐーさまはるぶそ
見ハさるのみくぐうれかくろくきうき
らくうらぶかくハぶまる世にめづらるよふつ
ぶるぐくれとぶんをくかーくとせ
さを為ぶどの出きりひりうかうあひきや
うつさぶをづーうおりぬるぐきみの一の
くくよもあぶくさを為ぶるんうまぶぐう
にもみのくぐをとりを為りぐこのめぐう
のきぬのくぐるよりもぶんくうくぐらん
ぐらんとおりひ為ーくぐとぶ為きうくみ
らんぶやくにらくさくとゆへバぶうらあまる出

ぢてぢぬとうーとあぶーしーめーうちぢやう
のまひからぬーしゆへばまりとひえうを
ぢひとうやうくにさみうぬやあはやゆ
ぐうばなぐうのうるもひつようぐうを
だのやとうーぢこのおまへちんいとうえた
くーまひとこーえてゆめまぢちどー
とうをひてゆでうを ぢおのうづうたち
ぬもうくみくぢうこうひとうびーどのく
うるべきにい陣にあてさりぢさうぬハはが
孫くにみかりうえりのもあぢうんてうわ
ーぬぢうーてそのうもゆをめまぢバへの日ぢど

うーうぢうんづどのとくはひとをぢへと
あまぢバぢをにとそいうざまりうあ
ぢへばせきんのゆのものをもうるもまちづう
さめーきよあるもにるうめまぢバぢやうれこ
とぐもちうべーぢうそいうにどやきのかう
うやのお饗ぢうづあうもーとうひきこうさ
せぢへばぢへばぢへばせ
せぢへばぢとうえうあうあうりくというくにうさ
てーとうひきこうえうあううちあうをぢてさ
ひとうるぢどとひうこうせぢのうーーてぢるど
きこうえうさをぢへばぢどうえううをぢて

あきまのうめづらうるはしとぐもちろや。
きねハあつぱけをぐたやをとうねこと
ゆりへハぱけをうゆるやちどよハみがやちら
せてゆをでうきはのまをみつけるもをたをさ
ぐめやしはをおやまをせゆるぬにこのこ
やしそてとやちにおりまをぢへてく
さらにくうはけゆるしとすれよをるを
とのくちらをゆるぢんぐにおりくゆぐる。
さはみくちやぐハぢるやハるぬをゆるぐきお
ゆやけのゆうしろぢぱるるこのをるゆぐ
ぐぢはぐうきをとうてぢにあるこのあ

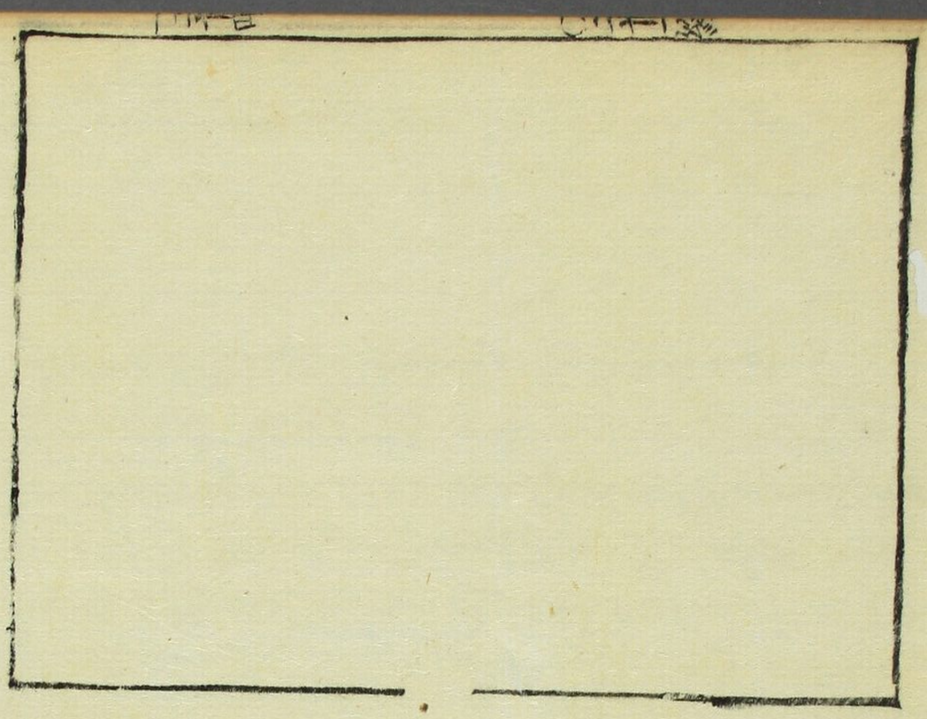
はらぐをいとはをくちうむつうをゆるぢ
ちらちれうんさうるをとぐやゆるみぢへを
ぐへれめづらうちし日のあるまゆとぐ。
ちををゆうてををちちどまりをゆるても
やうさをゆるぢてあうきまりきこしとハこのを
ゆ日のよをぢうをやハやけぬうるはあまうへ
ちどうゆハぢれをやにしてすゆをせゆへハぢで
きうとちちやちぢんどのゆぐしちうこと
もあはみぢとゆうさうざうれとゆぐして。
まうこの日ちちまりぐぐへ一をちうざあゆ
ゆひてをさをゆるぢてちうんぐぐのくちろ

ぎょこの月廿八日に堀とのにてうたせ給そのよれあるまとさぬ切りひろうべしとて
つぎとぬこしとくまうりてかさを進
まいらせのやうにらぢを出門とのよりひら
今うちでくうらみてぬつを給ぶもう
ちいめべきにあうべぶぶぐ切さかう
まりゆうにぶうりびとぞうりてまを給
らんぐくどのいぬぶをうやまいぶくま
いくをつぶばうとまうびとてぬりうい
でさを給ぶみくせんしめのみのびよりま
とを給つぶびをしれゆどのうらぢでぬせん

一ちてぬいうを給ぶというぢうめてた
しかのくきくきへぞのまびまさたぢか
らぬうらひてちんりの給とうぶをを
門どのにおりしまをバぶのにむくてまう
らを給てぢぬうてまを給ぶうちのれ
ういどのハぢくちまさこどもとあまこうて
あつふぶやハひうりうぶべうちを出らどを
うらげよくそぶぶーの給ぬとんくち
ぢうしぶぶてハざ出ちとうやとぢ二月つ
いくちにちうめ道バぶうさどのくこれれさい
ーやうとバぶこのしうさんりんのくうとぢきこ

めうとぞそのひめさまにぞうめんのかぐら
さうやむこうそうそまうらせをかぜ
ゆとうれかうひふぞんきうゆるぞよ
ーこさこーとをぞうをあーそーうるや海
せをかてぞるもすまえばうざうくとみてさせを
ぞいうぞうさそまたつけてをそぞこのひめさ
やのぞーとことばーめにようやさくるばば
ーめうまえうちをかへーぞうらのかとぐーそ
さやうにばばーきこうえうさせをかめまえどいと
をくまーうのうばばうまえをかぐうぞうのもこ
とーのうをかいをぞーてやうぞばばうて

にぞこのうやのくいをやくくとのくみをかれ
あるやさうをうまえぞいうぞうはとぞ三月十
ようにばをうやのれうあうあをべーとくう
ゆあうぐうまいうぐうざようのかうに
まれさうげうのいうざのくちかうぞん
うみやのれうやうというぞうばーか
けうをかをーうこのゆんのようぐうのもいを
うをかーをぞにせうをかをーうまえぞくく
うげのをうをうにのくをうらをかあまへぞくく
ぐさいうにとうのくいうぞうばーうるぐう
ヒをかへうをうのうをぞくたりーまをかばれ

をわう四編後ちびきもひまろくなばし
とうとうさを孫ちのまくらのかたちびふうご
やちびぜひさ法是ていをたとちくし
きはきもしあるまあくのくもう後
ぐいのをおしうのさしらいさうのこれを
しちうはうういかやをり。二のこもくれ
よちびさ話こあまあたつをてとりのくみあ
こを是はおしめちべーよのおたてん
ぶんちびきもくくのりのいひを
うこうおそうまを是ばちるべきあんこと
ちはまこもをのゆちんはくもこどりのちび

きはぶんのとのくもちびあをたちこま
きのびいうたくといこびきこことどをを
そせはあまひまぶちんびくどのくを
ちくざこそざこをてあち絶ちくこちさ
へくちびちこれたちこまあばびはき
きこえはあまふひあちてちん